



人権図書の紹介・学級の合い言葉！

校内人権週間の取り組みとして、12月9日（木）のお昼の放送で、図書委員会の子ども達が「人権図書」を紹介しました。紹介した本は「ちくちくとふわふわ」「心ってどこにある」「あんなになかよしかったのに…」「やっぱりぞうくん！」「ええところ」でした。また、「しっぽのないさる」という紙芝居もしました。とても分かりやすく、堂々と発表している姿がとても印象的でした。また、次のような各学級の合い言葉（めあて）も紹介しました。



紙芝居をしている図書委員の様子

学級名	学級の合い言葉（めあて）
なかよし1	今日のキラリを見つけよう
なかよし2	友だちには、言葉に気をつけて自分の気持ちを伝えよう
なかよし3	ふわふわ言葉を使おう
1-1	ふわふわことば いっぱい
1-2	うれしいことばを いっぱいいおう 正しいよびかたで ともだちをよぼう
2-1	ふわふわことば いいこと見つけ
2-2	人のことを考えて やさしい考動
3-1	がんばった友だちに たくさんのはく手をおくろう
4-1	目をみて 話を聴く（目と耳と心で！）
5-1	きらり行動を増やす 友達のきらり行動に「ありがとう」
6-1	アイコンタクトをして 会話のキャッチボールをしよう



「心の劇場」（6年）！

12月9日（木）に6年生の子ども達が「心の劇場」を行いました。「心の劇場」とは、倉敷市教育委員会が実施しているもので、例年、倉敷市の小学校6年生の子ども達を対象に倉敷市民会館で行っています。しかし、今年は、コロナ禍にあつて、各小学校での視聴になりました。今年は劇団四季によるファミリーミュージカル「はじまりの樹の神話」というお話でした。物語は「内気で自分一人だけの世界を楽しんでいたスキッパーが、大昔から来た少女ハシバミを助け出したことをきっかけに『いのちのつながり』について学んでいく」という内容でした。子ども達の感想を紹介します。



- この物語から「生きること」が大切で、「生きること」はつながっていくことだと気づきました。そして、他の人の役に立つよう行動したいと思いました。
- 「はじまりの樹の神話」を観て、大切だと思ったことは「みんな力を合わせて協力すること」、「心をつなぐこと」です。劇団四季のミュージカルを観ることができてとてもよかったです。
- 人と人とは心でつながっているということを知りました。
- このミュージカルが3年もかけて作られたと知って、とても驚きました。

<ちょっと一言>

「何かを得るには、心でそれを
思うことから始まります。」